

吉野川市総合教育会議会議録

招集年月日 令和7年1月24日（金）
 招集の場所 吉野川市役所東館3階231会議室
 開閉会日時 開会：令和7年1月24日午前9時50分
 閉会：令和7年1月24日午前10時54分

出席者	市長 原井 敬		
	教育長 木屋村雅信		
	委員(教育長職務代理者) 山口奈美	委員 貞野雅己	
	委員 熊代雄一郎	委員 武知李香	
出席職員	副市長 岡田芳宏	総務部長 香西卓生	
	副教育長 上田哲也	副教育長 久保義博	
	こども未来局長 藤岡泰友	教育総務課長 重清博文	
	学校教育課長 松本賢一	こども未来課指導主事 中野弘美	
	教育総務課主事 真杉沙希		
事務局	総務部次長 植田千恵美	総務課係長 三木康敬	

議題

- (1) 幼小架け橋期の教育について
- (2) その他

【会議の経過】

事務局	ただ今から令和6年度吉野川市総合教育会議を始めさせていただきます。まず始めに、原井市長にご挨拶をお願いします。
市長	教育委員の皆様におかれましては、先の定例教育委員会に引き続きまして総合教育会議へご出席いただき、大変お疲れ様です。また、平素より本市行政各般にわたりまして、とりわけ教育行政についてご指導、ご鞭撻をいただいておりますことに、この場をお借りしてお礼を申し上げます。 さて、総合教育会議については、ご存じのとおり、市役所の組織は教育委員会と市長部局という縦割りの組織となっておりますが、その中でこうして横の連携を図っていきながら、有機的につながっていくということで、定期的を開催しているところです。 新年度からこども園と小学校の連携強化についてということで、新たな取組みをスタートする予定となっております。 こうした取組みを今回は議題に挙げて、教育委員の皆様から様々なご意見を頂戴できればと考えております。 また、鴨島東中学校について令和9年4月を目途に鴨島第一中学

校へ統合するということで、現在、住民説明会を開いているところです。私も出席をさせていただいており、引き続き丁寧な説明に尽くしていきたいと考えております。

いずれにしても、子どもたちの教育環境をより良いものに整えていくという目的で行っておりますので、皆様方にも引き続きご協力をいただければと思っております。

本日は、限られた時間ではございますが、最後までよろしくお願いいたします。

事務局

それでは、以後の議事進行については、慣例により市長にお願いしておりますので、よろしくお願いいたします。

市長

それでは、委員の皆様におかれましては、円滑な議事進行にご協力をよろしくお願いします。

早速議事に移ります。

(1)の「幼小架け橋期の教育について」を議題とします。

まず、「吉野川市幼小架け橋期プロジェクト（案）」の概要について、教育委員会とこども未来局から説明をお願いします。

副教育長

まず、教育委員会から説明させていただきます。

配布しました資料をご覧ください。

今回の「吉野川市幼小架け橋期プロジェクト」は、幼児期の5歳児から小学校1年生までの期間、いわゆる「架け橋期」をスムーズにつなぐための支援計画を指します。

こども園や保育園から小学校へ進学する際、多くの子どもは大きな環境の変化を経験します。例えば、遊び中心の学びから、座学中心の授業スタイルへの移行や、新しい人間関係の構築、集団行動への適応などが挙げられます。このような変化は、子どもの心理や行動に大きな影響を与えることがあります。そのため、スムーズな移行を促進し、子どもが安心して小学校生活をスタートし充実した学校生活を送ることができるよう支援することが大切です。これまでも、この重要性は、認識されてきたことです。

しかしながら、かつて、多くの幼稚園が小学校に隣接され、小学校の校長が園長を兼ねていた時代から、法律の施行によって「認定こども園制度」に改定され、環境が変わり、小学校と物理的な距離ができたことや、それぞれを所管する行政部局が異なること、さらにはコロナ禍を経て、その連携不足が課題となっていました。

そこで、それぞれを所管する市長部局のこども未来局と教育委員会が連携強化を図り協力して子どもや園・学校を支援していくことが何より重要となってきます。このような趣旨から、こども未来局

と教育委員会が協議を重ね、資料にある、今回のプロジェクトを協働で立ち上げ、本日の総合教育会議のテーマとして取り上げることといたしました。

資料の中央部に記載しています、このプロジェクトの核となる組織である幼小架け橋期連携協議会、その左下の幼小連携会議の具体的な内容は2枚目の資料に付けていますので参照していただければと思います。

また、今回のプロジェクトを校長会長等へ説明した折には、「子どものために、小1プロブレムを解消しぜひ前向きに取り組んでいきたい」「支援の必要な子どもの情報を早い段階で得ることでその子のスムーズな小学校生活につなげたい」との返事もいただいているところです。

0歳から12歳まで本市の子どもの学びをつなぎ、更なる子どもの成長につなげていくための取組みですので、よろしくお願いいたします。

以上で教育委員会からの説明を終わります。

こども未来局長

ただいま、教育委員会からプロジェクトの概要等について説明がございましたので、こども未来局からは各こども園の園長の意見などについてご説明します。

まず、鴨島東こども園と牛島小学校、高越こども園と高越小学校など、こども園と小学校が隣接している地域では、一定の交流が図られている状況ですが、コロナ禍を経たことにより思うような交流ができていない校区があります。

こども未来局においても、公立・私立・公私連携こども園の合同園長会を設けており、その中の議題として今回のプロジェクトを幾度となく取り上げ、協議を進めて参りました。

先日の園長会の意見としては、「こども園と小学校の双方の先生が互いに困っていることなどを本音で協議する場が必要であり、資料下段の各地区の幼小連携会議がその役目を担うよう期待している。」「こども園としては子どもを送り出した側として小学校でどのように成長を遂げているのか、交流の機会を通して確認できることが今後の教育・保育を研鑽していくうえで重要である。」など、様々なご意見をいただき、「現在の交流が滞っている状況により不利益を被っているのは子どもたちである。まず改善への第一歩としてこのプロジェクトを始めてみよう。」という総括でした。

こども未来局としても、このプロジェクトのスタートを契機として、一度止まっているときを動かし、教育委員会と連携しつつ、子どもを真ん中に据えたプロジェクトを進めていきたいと考えております。

	以上です。
市長	それでは、この件についてあらかじめ委員の皆様から質問をいただいておりますので、それぞれ順番にご質問いただき、その都度、担当者からの説明・回答をさせていただきます。 はじめに貞野委員から、よろしくお願いします。
貞野委員	現場では、保育に時間をとられ、定期的な連携会議に出席したり、架け橋期のカリキュラムを作成したり、研修会に参加したりするような時間の確保が難しいのではないかと考えます。 また、地方自治体において教育アドバイザーの配置等を推進する必要があるとありますが、現在働き方改革を進めている中で、職員の勤務は多忙で、これ以上職務をこなすのは大変だと思われます。 人材確保や勤務環境の改善が必要だとも言われているため、人員増が必要だと思いますが、どのようにお考えでしょうか。
市長	ありがとうございました。 貞野委員からの質問としては、「保育職員の時間の確保について」と「人材確保や勤務環境の改善について」ということでご質問をいただきました。 この件については、こども未来局及び学校教育課から、それぞれ説明をお願いします。
こども未来局長	こども園においては、既にカリキュラム作成に取り組んでおり、また、研修等に参加する際にも園内のフリー保育教諭を代替として配置しているところですが、年度当初の保育教諭の配置を考える際に、5歳児担任の会議への出席や、連携会議におけるカリキュラムの編成などが過度な負担とならぬよう配慮したいと考えています。 また、こども園においては、「指導主事」が教育アドバイザーの役割を果たす位置付けと考えており、令和6年度からこども未来課付の「指導主事」をこども園内に配置して現場の保育教諭などの指導に当たっていることから、現状、特段の支障はないと考えています。
学校教育課長	現場の負担をできる限り増やさず、交流や連携、情報交換を行うことで、子どもたちがこども園を卒園し、スムーズに小学校生活に移行することができれば、小1プロブレム等の問題が減少し、現場の先生方の負担軽減にもつながると考えています。 また、現場の負担を増やさず、その効果を最大限にするためにも、小学校区を基準として開催される幼小連携会議では、地域性や学校

の実態に応じた、持続可能な交流や情報交換を行っていただく予定です。例えば、ある幼小連携会議では、就学前と小学生の交流も行うが、別の幼小連携会議では、先生方の交流にとどめるなどの具体的な対策が考えられます。

市長

ただいま各担当から説明がありましたとおり、具体的には過度な負担とならぬよう、人員配置に配慮したいということです。また、現在こども園に配置している指導主事の活用や、小学校区での幼小連携会議において連携を行っていくことで対応したいと考えています。

貞野委員、この説明・回答についてご意見等はございますでしょうか。

貞野委員

時間や心にゆとりがあれば、子どもたちへの対応の仕方が変わってくると思います。例えば子どもたちが「先生、あのね・・・」と来たときに、子どもたちと目線を合わせて子どもたちが何を伝えたいのかゆっくり聞いて対応するのと、騒々しい中で後回しにして後から聞きにいったから対応するのとは全然違うと思います。

そのためには、やはり人が必要だと思います。

現場の先生方は子どもたちへの対応で手一杯だと思います。子どもたちは通常夕方までいることが多く、先生はトイレに行く時間すら取れないという状況で勤務されています。一方で、働き方改革も進められていることにより、勤務時間中に処理しきれない仕事も増えているようです。

これに対応するには人員増しかないと考えます。

人件費というのはお金も掛かることですし、予算的にも大変だとは思いますが、子どもたちへの投資は吉野川市の未来への投資だと思いますので、「先生、あのね・・・」に対応できるような職場環境の実現を望みます。

市長

ありがとうございました。

こども園に関しては、市長部局においては保育士の加配等について柔軟に対応する方針です。また、学校現場においては県教育委員会の所管とはなりますが、本市としてもしっかりと要望をお伝えしていきたいと考えています。

続きまして、山口委員、よろしくお願いします。

山口委員

1つ目の質問として、『幼児教育と小学校教育では、各教科等の区別の有無や内容・時間の設定など様々な違いを有することから、幼保小が意識的に協働して「架け橋期」の教育を充実』とあるが、

	「架け橋期」の教育を充実とは具体的にはどのような取り組みでしょうか。 2つ目の質問として、『幼保小が協働して、3要領・指針において幼児教育の資質・能力が具体的に現れる姿として定められている「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」等を手がかりとしながら、架け橋期のカリキュラムを作成』とありますが、架け橋期のカリキュラムとはどのような資料のことでしょうか。
市長	ありがとうございました。 山口委員からの質問としては、「架け橋期教育の具体的な取り組みとは」と「架け橋期のカリキュラムとは」ということでご質問をいただきました。 この件については、こども未来局及び学校教育課から、それぞれ説明をお願いします。
こども未来局長	1つ目のご質問についてです。 本市では、幼児教育での「アプローチカリキュラム」、小学校においての「スタートカリキュラム」を独自に作成し、その中で5歳児と小学1年生の「架け橋期」における取り組みとして、具体例などを挙げ示しています。 よくある「架け橋期」の交流としましては、互いの運動会や行事などに参加しての交流などがありますが、来年度から本市がスタートします「吉野川市幼小架け橋プロジェクト」におきましては、母体として「幼小架け橋期連携協議会」を立ち上げ、そこから地区ごとの小会議「幼小連携会議」を設け、地区ごとで取り組みを進めて参ります。 地区によっては、既に実施している架け橋期の取り組みなどもあるかと思いますので、それぞれの地区ごとに「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」に向け、具体的な取り組みについてご協議いただくよう考えております。 架け橋期については、幼児教育施設と小学校の両者が連携の意識を持ち、教育実践を見合い、相互の共通理解を図ることが重要であり、特に小学校入学当初は幼児教育との指導方法の連続性・一貫性を確保できるよう取り組んで参ります。
学校教育課長	続いて、学校教育課からご説明します。 スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムにも記載があるように、幼児期の発達や遊びを通した総合的な学びが小学校の学習や生活において発揮できるように、また児童の思いや願いをきっかけとして始まる学びが自然と教科等の学習につながっていくよう

	に、単元の構成や配列を行うようにカリキュラムデザインを行っています。 小学校のスタートカリキュラムを作成するに当たっては、生活科を中核に据えて単元を構成しています。これは、遊びを通した総合的な学びを通じて育まれてきた幼児教育の内容を、合科的・関連的な教科である生活科から各教科における学習に円滑につなげていくためです。 年間を通した計画を互いに共有することで、幼児教育と小学校教育のそれぞれの目標や内容も共有することができ、またアプローチカリキュラムでの学びをスタートカリキュラムにつなげ、より教育的効果を上げることができると考えています。
こども未来局長	次に、2つ目のご質問についてです。 カリキュラムとしましては、幼児教育の「アプローチカリキュラム」、小学校での「スタートカリキュラム」を本市独自で作成しており、そこに5歳児における4月から3月までのカリキュラム例、また小学1年の4月から3月までのカリキュラム例を示しておりますので、それが基本になるかと思いますが、そのカリキュラムを編成していただいた形で各地区のカリキュラムを作成することができれば、さらに深まった交流へとつながると考えております。
市長	ただいま各担当から説明がありましたとおり、「アプローチカリキュラム」と「スタートカリキュラム」は今後作成していくということです。また、幼小の交流活動など、話し合いを進めていきながら「育って欲しい園児・児童の姿」につなげていこうということだと考えています。 山口委員、この説明・回答についてご意見等はございますでしょうか。
山口委員	詳しく教えていただき、ありがとうございます。 こども園と小学校が一緒に行事をするとなると、小学生がこども園に行くとか、園児が小学校に行くとか、移動することもあると考えられますが、これも各地区ごとに検討していくということになるのでしょうか。
市長	具体的な取組みの内容は、地区の連携会議において協議していきます。こども園と小学校が物理的に離れている地域にあっては、どうしても距離的な問題があると思います。そのため、それぞれの地区ごとにカリキュラムについても違いが生じるものと考えます。 いずれにせよ、今後において詳細を検討していくことになります。

山口委員	わかりました。ありがとうございました。
市長	ありがとうございました。 続きまして、武知委員、お願いします。
武知委員	教科書のない幼児に質の高い教育とはどのようなことをするのでしょうか。 もし、質の高い教育方針に沿わなかった時は、どのような対応をするのでしょうか。
市長	ありがとうございました。 この件については、こども未来局から、説明をお願いします。
こども未来局長	幼児期では、教育的な意図をもって計画的に構成されたカリキュラムのもと、自然や環境に触れ、好奇心や探究心をもって遊びを展開する中で、気付いたり、工夫したり、試行錯誤を繰り返したりする過程を通じて、達成感、充実感、挫折感、葛藤など多様な経験をしながら、様々な能力や態度を身に付けていきます。 また、こうした生活や遊びを通し、家庭や地域では体験できない育ち合いや学び合う関係が形成されることが、教科書のない幼児期特有の教育であると考えております。 幼児期は同年齢であっても発達の個人差が著しいほか、家庭環境や入園までの幼児教育施設の利用状況などの違い、また、障がいや何かしら支援が必要な場合など、多様な差異があるため、一人一人の特性や発達の課題等に応じて教育を行うことが求められます。 このような幼児に対しては、幼児の心が揺り動かされ、やりたいこと、夢中になることと出会えるような環境を、幼児一人一人と向き合い、幼児とともに創造していくことや、活動の流れや心の動きに即して、常にその環境が適切なものとなるよう、柔軟に再構成し、粘り強く寄り添っていくよう考えております。
市長	ただいま担当から説明がありましたとおり、遊びなどカリキュラムに基づいた取組みを進め、教育方針に沿わなかった場合は、柔軟に再構成し、粘り強く寄り添っていくということです。 武知委員、この説明・回答についてご意見等はございますでしょうか。
武知委員	自分も子育てをしているところで、小さい子どもの半年や1年はそれぞれの成長に差があると感じます。そのため、子どもたちを同

	じカリキュラムに当てはめるのは難しいのではないかと思いますでしたが、よくわかりました。 また、カリキュラムの例を見ても子どもらしい教育の内容となっているようで安心しました。
市長	武知委員は、音楽等を専門分野に活動されているので、そういった分野も幼児期の学びの一つになると思います。 ありがとうございました。 続きまして、熊代委員、よろしくお願いします。
熊代委員	質問というより、私からの要望のような内容となりますが、ご了解ください。 このプロジェクトで最も大切なのは子どもたちであり、幼小連携会議も必要だということは当然であると思いますが、私は、先生方の交流が重要であり、これがスタートになると思います。 先生方が忙しいことは承知していますが、その中でも時間を作っていただいて、仕事に当てはまらないような場で、例えば先生同士がランチミーティングなどで率直な意見交換を行うことができることが必要だと思いますが、いかがでしょうか。
市長	ありがとうございました。 この件については、こども未来局から、説明をお願いします。
こども未来局長	現状は委員がおっしゃられたとおりであり、子どもたちのために質の高い教育活動が行える様、交流や連携が不可欠となります。そのためにも、令和7年度からスタートする「吉野川市幼小架け橋期プロジェクト」において、「園児と小学生の交流」や「先生同士の交流」等が、園や学校の実態に応じた形で行われるよう、こども未来課・教育委員会でサポートを行いたいと考えています。 吉野川市幼小架け橋期プロジェクトによって、まずは地区ごとの小会議を重ね、互いの意見や、交流の姿などを出し合うところからはじめて参りたいと考えています。 「園児と小学生の交流」や「先生同士の交流」が園や学校の実態に応じた形で行われることで、先生同士の絆や園と小学校間の垣根が低くなり、良好な関係が築かれることで、委員がおっしゃられた様な関係になることを願っており、そのためにもこども未来課・教育委員会でできる限りのサポートを行いたいと考えています。
市長	今回、幼小連携会議を立ち上げていく中で、市としても先生方に一任するのではなく、こども未来局や教育委員会もコーディネータ

	一としてそれぞれをつなげていく役割を担うものと考えています。 熊代委員、この説明・回答についてご意見等はございますでしょうか。
熊代委員	先生方の負担等もあると思いますので、より良い環境や雰囲気を作っていただくことを願っております。
市長	ありがとうございました。 続きまして、本日欠席されております栞原委員からもご質問をいただいておりますので、事務局が代読します。
事務局	代読します。 1つ目として、5歳から小学校1、2年生の時期を教育の「架け橋期」と設定しているが、その中で「遊び」を通した学びの教育的意義・効果とあるが、「遊び」とは具体的にどのようなもので、カリキュラムとの関係は。 2つ目として、人材育成におけるコーディネーターとは、どんな人が担当し、何人くらいの配置となるのか。また、心理・福祉・障がい等の専門的知見の活用と不登校や知的障がい児のインクルーシブ教育の充実はどうなるのか。 3つ目として、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」とは具体的にどのようなものか。 4つ目として、モニタリング可能な個別教育計画の作成の共有が基本となる事が望ましいと考えるが、どのように考えるか。 以上です。
市長	この件については、こども未来局及び学校教育課から、それぞれ説明をお願いします。
こども未来局長	まず、1つ目の質問についてです。 幼児期においては、遊びを通しての指導を中心に行うことが重要であり、幼児期の認識や思考は、幼児が興味・関心をもった日常生活の中の具体的な出来事や、自然・文化的な事物・事象などを手掛かりとしながら、直接的・具体的な体験を通して行われています。 具体的には、幼児は遊びや生活の中で、必要感をもって数を数えたり量を比べたり、様々な形に組み合わせたりして多様な体験を積み重ね、数や量、形への感覚を養っており、例えば、収穫した野菜の大きさや、集めた木の実の量などに驚いて思わず大きさを比べたり、数を数えて友達と同じ数ずつ分け合ったり、積み木や空き箱、木の枝など、それぞれの形の特徴を捉えながら見立てたり、イメージに合わせて形を作ったりしています。

このような直接的・具体的な体験は、算数の数量や図形などについての基礎的・基本的な概念の形成や性質などを理解する上で、大きな支えとなるものです。

幼児期の遊びは、知識・技能などを教え込むことではなく、幼児が保育教諭等との信頼関係に支えられ、遊びを通して楽しいと感じる多様な体験をしながら、小学校以降の生活や学習の基盤となる資質・能力を育んでいくようにすることが重要であり、幼児期特有の学習であると考えています。

次に2つ目の質問についてです。

本市のこども園における人材育成コーディネーターの役割としては、こども未来課付の「指導主事」をこども園内に配置し、現場の保育教諭などに直接指導を行い、教育保育の質の向上に努めています。

また、公立園及び公私連携園において、支援が必要とされる子どもが通園されている場合は、その支援の度合いにより重度と軽度を判断し、重度の子どもさんには1対1で加配保育士を配置し、軽度の子どもさんには3対1で加配保育士を配置しています。

園における支援の中で、子どもが感じる「困り感」を見いだし、それを支援により払拭していくことで、自信や発達につながるよう進めており、さらに専門機関とも一人一人の特性に配慮した支援のあり方を協議し、子どもの「困り感」が緩和できるよう努めております。

園児同士の関わりの中で、他者への思いやりを深め、互いの特性を受け止めるなど、園児同士が共に尊重し合いながら、協働して生活していく態度を育むことにより、園児のウェルビーイング向上につながるよう取り組んでおります。

学校教育課長

続きまして、学校教育課です。

特別支援教育に関しては、幼小の特別支援教育コーディネーターが中心となり、連携を取り合っています。

知的障がい児については、幼児は特別支援教育コーディネーター等の担当保育士がおり、児童については特別支援教育コーディネーターを中心として特別支援学級の担任や支援員等が支援しながら連携を取ることができるので、インクルーシブ教育はより一層進むと考えられます。

こども未来局長

次に、3つ目の質問についてです。

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」などにおいて、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」として10の姿が示されており、まず「健康な心と体」、続いて「自立心」、「協同性」、「道徳性・規範意識の芽生え」、「社会生活との関わり」、「思考力の芽生え」、「自然との関わり・生命尊重」、「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」、「言葉による伝え合い」、「豊かな感性と表現」となっています。

本市においては、令和３年２月に「こどもの育ちと学びをつなぐ架け橋期のカリキュラム（アプローチカリキュラム編）」を独自に作成しており、例えば、育って欲しい姿の「言葉による伝え合い」では、保育教諭等や友達と心を通わせる中で、絵本などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになることを期待する姿として、日々の教育・保育に努めています。

最後に、４つ目の質問についてです。

こども園においては、アプローチカリキュラムの作成に取り組み、園の全体的な計画と園児一人一人の発達の実情に照らし合わせた「個別計画」や「個別支援計画」を作成しており、園生活での個別計画の展開において記録された「こども園こども要録」によって、小学校との引継ぎ・共有が図られています。

学校教育課長

続きまして、学校教育課です。

また、特別支援教育における「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」においては、こども園・小学校共に作成時に保護者に活用についての同意書をもらうことになっており、引継ぎ等に活用できるようになっているため、共有することは可能であると思われます。

市長

ただいまの担当からの説明については、後日、栗原委員へお伝えしたいと思います。

以上であらかじめいただいたご意見等は終了しましたが、他にもご意見等がありましたら、お願いします。

教育長

今回の議題において委員の皆様からいただいた質問の内容について、焦点化できるものはないかと考えていたところ、かつて私が小学校教諭であった頃に、幼稚園教諭から聞いたお話がありますので、ご紹介させていただきます。

（幼児教育の事例について資料を用いて説明）

市長

教育長、ありがとうございました。

かつては幼稚園と小学校が隣接していたことが多く、このような一貫した取組みがし易かったと思いますが、現在のこども園が整備された本市の場合は連携が希薄になってきている部分があります。

このような状況から架け橋期の教育が重要であるということが再認識できました。

先ほどの教育長の事例紹介について、ご意見等はございますか。

ご意見等がないようでしたら、次の（２）「その他」についてを議題とします。

	この際、ご意見等がありましたらお願いします。
武知委員	教育委員としての活動で、小中学校へ視察に行って子どもたちの活動を見させていただく機会はあるのですが、こども園などの活動を見る機会がありません。 可能であれば、小中学校の視察の際に隣接しているこども園などを視察させていただくということは可能でしょうか。
市長	これについては、前向きに進めていきたいと思います。
教育長	本市に市立幼稚園があったときは、小中学校の視察に併せて幼稚園も視察していました。 市内の全てのこども園等を視察するということは難しいと思いますので、小中学校の近隣のこども園等に絞って視察するというようなことを検討していきたいと考えています。
市長	ご意見ありがとうございます。 その他、ご意見等がありましたらお願いします。
山口委員	私も武知委員の意見と同じことを考えていました。 自分の子どもは既に大きくなっているので、幼稚園の頃の状況は保護者として知っている部分はあるものの、こども園の状況については少し距離があり、知ることが難しいと感じています。 そのため、先ほどの視察の件は是非実現して欲しいと思います。 また、市長部局の管轄のこども園と教育委員会の管轄の小学校が密に連携を取ってやっていけたらと思っています。
市長	組織としては縦割りになっておりますが、私自身はそういう意識を持っていません。 日々、教育長と様々な意思疎通を図っているところであり、話は逸れますが、今回の鴨島東中学校の統合の件についても、組織としては教育委員会で決定したものではありませんが、住民の皆様からすれば市長もその決定をした組織の一員であるという見え方があると思います。そのため、私も責任を持って、住民説明会へ出席し、丁寧な説明に努めているつもりです。 いずれにしても、こういった意識の共有が大事であると考えています。 委員の皆様からいただいたご意見をしっかり受け止め、運営していきたいと考えています。 その他、ご意見等がありましたらお願いします。

貞野委員

市長からお話が合ったように、鴨島第一中学校と鴨島東中学校の統合の件について、住民説明会に市長自らが出席し、説明していただいていることは、地域の皆様も感謝していると思いますし、市長の本気度が伝わっていると思います。

そのような中で、アンケートの集計を見てみると、保護者の方々が最も不安に思っているのは「子どもたちの登下校の安全面」であるという結果でした。スクールバスによる送迎等の、市としてできる支援をお願いしたいと思います。

また、統合したときのメリット・デメリットはあるとは思いますが、子どもたちが「統合して良かった」と思えるような学校になるように、市として支援をお願いしたいと思います。

市長

ご意見ありがとうございます。

説明会の中でも通学支援を行うことを前提にしており、運用面等を含め、詳細を検討しているところです。4月に立ち上げる準備委員会において決定していくことになりますが、私自身もその動きをしっかりと把握しながら、登下校の安全面について議論を深めていきたいと考えています。

また、今回、鴨島第一中学校の校区にお住まいの保護者の方々を対象に説明会を開催したところ、予想していたよりも多くの方々がご参加くださり、熱心に説明を聞いていただいたことで、保護者のお気持ちも知ることができる良い機会となりました。これによって、鴨島東中学校に対して、また、鴨島第一中学校に対しても、環境整備をやっていかないといけないと改めて強く感じたところで、しっかりと支援していきたいと考えています。

その他、ご意見等がありましたらお願いします。

各委員

(意見等なし)

市長

ご意見等がないようでしたら、本日の議題は全て終了しました。

各委員からいただきましたご提言やご意見につきましては、今後の市政に十分に尊重し、参考とさせていただきたいと思っております。

以上をもちまして、今回の総合教育会議を閉じることとします。
議事進行にご協力を賜り、ありがとうございました。